子育てサポートと地域のちから

―18時間にひとり― 市内の家庭に誕生する、新しい命と育てる責任。

一昨年、笠間市内のご家庭に誕生した赤ちゃんの人数は493人。

全国的に少子化が進んでいますが、笠間市でもその傾向は同様で、出生率は国や県を下回っています。それでも確実に493人の赤ちゃんは誕生しています。

出生数（人）	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
	645	549	624	586	567	575	525	526	515	544	493

安心して子どもを産み育てることができるまちに。

誕生して間もない命を授かったママさん、パパさんは、新たな家族ができた喜びと楽しみが溢れ、これからの生活に夢と希望を思い浮かべると思います。

しかし、子どもとの生活は喜びと楽しみが溢れている一方で、さまざまな不安や悩みも生まれてくるのではないでしょうか。

今、少子化や核家族化が進んでいます。また、共働き家庭も増加して、子どもや子育て家庭を取り巻く地域社会が大きく変化しています。

かつて、子どもを産み育ててきた家庭が…

子どもや子育て家庭を支えてきた地域社会が…

住民のつながりの希薄化によって、大きく機能が低下していると言われています。

これから子育てを迎えるママさんやパパさんは、子育てに関する知識や経験が十分ではない状態で、子育てという大海原に小さな舟で漕ぎ出さなければなりません。乗組員はママさんとパパさんの二人だけ。他の舟は近くにはいないため、情報交換し助け合う機会も少なくなってきています。

赤ちゃんのお世話は24時間365日。

パパさんは赤ちゃんが生まれてから現実が見えて、右往左往…

赤ちゃんのお世話、子育ての責任は、ママさんに集中しがちです。

最初はがんばっているママさんも周囲から子育てのサポートが得られない場合は、しだいに不安を抱き、ストレスがたまってしまう人も少なくはないでしょう。

今月号は、ママさん、パパさんをしっかりサポートする市の子育てサポートを紹介します。

多くの皆さんに、市の子育てサポートに目を向けていただき、子どもや子育て家庭を応援してほしいと思います。

肩の力を抜いていいよ。私たちがついています。

子育て世代包括支援センター“みらい”
子育てを始めるママさん、パパさんのための総合相談窓口で、平成27年3月に県内でいち早く設置しました。
“みらい”は、さまざまな不安を抱くママさん、パパさんの強い味方です。

子育て世代包括支援センター“みらい”
〒309-1734 笠間市南友部1966-1
（地域医療センターかさま内）
TEL 0296-77-9145

核家族化が進んでいて、ご近所とのかかわり方も、昔とは変わってきています。つながりがなくなり、人間関係が希薄になっていく中で、ママさんたちが適切で必要な支援が受けられない場合、子育てに関して孤立感や疲労感を抱き、子育ての負担や不安が増大し、過剰な育児ストレスなどを引き起こしてしまうこともあります。

みらいは、社会問題になっている希薄な社会の隙間を埋めて、妊娠、出産、子育てのさまざまな不安を解消するために、その家庭に必要なサービスを紹介したり、ニーズに合った子育て支援をしています。

特に、妊娠期や出産直後のサポートに重きを置いて、産前産後の気になることを保健師や助産師が電話や訪問などで相談に応じています。

また、必要に応じて継続的なサポートも行います。

子育てには、「正解」や「完璧」はありません。多くのママさん、パパさんが、そして周りの皆さんが悪戦苦闘しながら生活しています。

私たち、みらいスタッフはママさん、パパさんの子育てを応援しています。

私たちがついています。
気軽に相談してください。

仲間づくりは かさママサロン

サロンは、助産師等が妊娠生活や分娩、授乳や育児に関する疑問や相談に応じる場として開催しています。

妊婦さん、産後間もないママさんや赤ちゃんが集まって、妊娠、出産、子育てのことを語り合い、同じ仲間として交流が広がっていくように毎月一回開催しています。不安解消、仲間づくりなどリラックスできるサロンです。

産婦人科で 産後ケア

「退院することが決まったけど、不安がいっぱい」、「赤ちゃんと生活を始めたけど、わからないことが多くなってきた」など、ママさんたちの子育て不安が軽減できるように、専門の施設で授乳指導や育児指導など産後ケアが受けられます。

利用にあたっては、日帰りか宿泊型が選べるほか、組み合わせての利用も可。自己負担は施設利用料の2割です。

専門職が 個別サポート

安心して赤ちゃんを産み育てるために、保健師などが電話や家庭訪問を行いながらサポートしていきます。

特に、毎週月曜日と水曜日の午前9時から11時に予約制で、「助産師の母乳相談」を行っています。母乳は足りているの？おっぱいを上手に吸えているかな？など、専門職から個別サポートが受けられます。

このまちで、ずっと笑って子育てを楽しんでもらうことが市の務め―

おもいっきり遊べる場所はここだ!!

子育て支援センターや児童館では、
親子で遊べるイベントを開催しています。
笠間芸術の森公園をはじめ、市内にはロング滑り台などが
備わっている公園もあるので、
これからママさんパパさんになる方は必見!!!

名称・電話番号	場　所	利用日時
くりのこ TEL0299-37-6611	市民センターいわま 下郷5140	毎週月・水・木・金曜日 午前10時～正午 午後1時～4時
みつばち TEL0296-71-5858	かさまこども園内 金井83-1	毎週月～金曜日 午前10時～正午 午後1時～4時
かんがるー TEL0296-77-8340	児童館内 南友部1966-140	毎週月～金曜日 午前9時～正午 午後1時～4時
児童館（キッズ館） TEL0296-77-8340	南友部1966-140	年中無休 （年末年始を除く） 午前9時～午後6時

名　称	場　所
笠間芸術の森公園 あそびの杜	笠間2345
佐白山ろく公園	笠間1015-2
鷹匠町児童公園	笠間17-1
程島児童公園	笠間1725-7
城南・やきもの通り公園	下市毛591-1
笠間駅北街区公園	笠間5095
赤坂前児童公園	赤坂15
亀ヶ橋北児童公園	赤坂18
亀ヶ橋南児童公園	赤坂19
大池公園	赤坂20
石井街区公園	石井2068-1

名　称	場　所
笠間市総合公園	箱田867-1
いなだふれあい公園	稲田2315-1
友部第一児童公園	八雲一丁目5-23
友部第二児童公園	中央三丁目3-1
友部駅前児童公園	東平二丁目 1470-202
鯉淵公園	鯉淵6269-15
北山公園	平町1416-1
まきば公園	平町1877-38
あたご天狗の森公園	泉
岩間工業団地第一公園	安居2600-17
岩間工業団地第二公園	安居2600-31

妊娠前　妊娠中　出産後　就学前

子育ての不安に寄り添う
私たちの子育てサポート年表

■**子どもがなかなか授かれなかったら**

不妊治療助成事業 一回の治療で10万円を限度に助成します。最大で6回の不妊治療に助成します。

■**産前産後ってどうしたらいい？**

医療福祉費支給制度 妊産婦の医療費を助成

産前産後サポート事業 電話や訪問でサポート

産後ケア デイやお泊りで、産後のサポート

かさママサロン 妊婦さん、赤ちゃんとママさんの交流の場

母乳相談 母乳ケア

産後検診の助成 2回分の産後検診を助成

■**子どもにかかる医療費って高そう**

医療福祉費支給制度 0歳児から18歳未満（高校生は入院のみ）まで医療費を助成します。

■**こういう時はどうするんだろう**

育児相談・家庭訪問 相談と必要なサービスの紹介など

■**安心しておでかけしたい**

あかちゃん・ほっと!ルーム 外出中に気軽に立ち寄り、授乳やおむつ交換ができる施設（公共施設、駅、医療機関、店舗など）です。

一時預かり事業 一時的にお子さんをみることができないときに認定子ども園、保育所に預けることができるサービスです。

子育て支援センターや児童館 親子のふれあいと遊びのスペースを提供しています

子育て短期支援事業 一時的にお子さんをみることができないときに利用できる、ショートステイサービスです。

ファミリーサポートセンター事業 「お子さんを預かってほしい方」と「お子さんを預かることができる方」が、それぞれ会員となり、お互いに信頼関係を築きながら、預けたり、預かったりする地域が主体的に行う子育て支援活動です。

病児保育 急にお子さんの具合が悪くなっても、仕事を休めないときに、お子さんを預けることができるサービスです。

病後児保育 病気の回復期にお子さんを預けることができるサービスです。

いそがしいママもパパもこれで安心!

かさま ぽけっと

その子に合ったお知らせが届くスマホアプリです。
児童館（笠間キッズ館）や子育て支援センターで行われる子育て支援講座や、図書館で行われる子ども向けのイベント情報、保健センターの健康相談、予防接種のお知らせなどを配信しています。

スケジュール管理
乳幼児健診や休日当番医、イベントの日程が一目瞭然！

予防接種管理
予防接種を受けた日を登録すれば、何を接種したか、していないかすぐ分かる！

成長記録
はじめてしゃべった時やハイハイしたときのことを写真と一緒に登録。成長の記録を忘れません！

プッシュ通知機能
忘れちゃいそうなことも、プッシュ通知でお知らせ！

ダウンロード方法
ご利用のスマートフォンから、ダウンロードアプリを起動し「笠間」で検索してダウンロードしてください。

問い合わせ／
子ども福祉課（内線164）

子育てママもお気軽に

事業者の皆さん向け

多様な働き方 情報交換会

保育所へ入れないから仕事に復帰できない…

保育所からの呼び出し。午後からの仕事どうしよう…

そんなママたちのために、子どもを連れて働く「子連れ出勤」が注目を集めています。

市内で実施した「子連れ出勤」の事例発表を中心に、働き方改革について学びます。
事業所の皆さんで気軽に情報交換をしませんか?

日時／1月25日(金) 午後4時～5時30分
場所／地域交流センターともべ「トモア」
問い合わせ／秘書課（内線225）

修学後

■周りの子についていけないかも

発達相談 ことばの悩みなどの相談の場を提供します。
ことばやそだちの教室 就園後のそだちの悩みをサポートする個別教室です。
親子通園教室 就園前のそだちの悩みをサポートする小集団の教室です。
就学前アドバイザー事業 就学前に通学に関する相談と学校をコーディネートします。

■子どもとのかかわり方を学びたい

家庭教育 3～4か月児相談や就学時健康診断などライフイベントに応じて実施

■学校になじめなかったらどうしよう

スクールソーシャルワーカー 不登校、虐待、貧困等児童・生徒を取り巻く環境の改善のため、関係機関との連絡調整
スクールカウンセラー 児童・生徒、保護者の心理相談業務
適応指導教室 不登校児童生徒の支援
特別支援教育支援員配置 障害のある児童生徒の支援

■英語力をつけさせたい

英語強化推進 検定試験公費補助

■地元の良いものを食べさせたい

料理教室 親子で食事づくりを体験し、お子さんの成長期に必要な食の知識を学びます。
農業と食のイベント 笠間の農産物を「育てる・作る・食べる」を体験し、地産地消を学びます。
学校給食 地元食材を活用した学校給食を提供しています。

やっぱり体験しないとわからないね。

こんなにきついとは思いませんでした。
これから、もっと気づかっていきます。

初めての出産では不安はつきもの。パパさんの支えが必要です。

保健センターでは、妊娠中の生活や出産準備、妊婦特有の不安や悩み、出産に関する疑問の解消、そして何より同じ地域で、同じ時期に出産する妊婦さん同士の情報交換、ママ友づくりを目的にマタニティクラスを設けています。

主に妊婦さんを対象とした講座ですが、その中には妊娠期をご夫婦で支え合えるように、パパさんも参加できる講座があります。

パパさんの妊婦体験と赤ちゃんのお風呂の入れ方

「きつーっ」

パパさんのため息に近い声と、ママさんの歓声に近い笑い声が響きます。

重量が15kgほどある通称妊婦ジャケットを装着すると、まずその重さに圧倒されます。おなかが大きい分、物を取ったり、拾ったりする際には、今まで通りにはいかないことを分かってもらうことができます。おなかに新しい命が宿っている以上、妊婦さんは気を使って生活しなければならないことがパパさんたちに理解されるきっかけになります。

一般的に男性は赤ちゃんが産まれるまで、子育ての実感がわいてこないという傾向があります。そのため講座では、赤ちゃんのお世話の仕方を本物そっくりに作られた人形を使って学習します。「これが地味にリアルで、重いんです。」とは、参加したパパさんの感想（笑）

赤ちゃんのお世話は待ったなしです。ママさん任せにしないで、パパさんも赤ちゃんが生まれたらできるだけ実践し、大切な赤ちゃんを気づかい、ママさんを支えていくことが幸せな家庭を築いていく一つの条件だと思います（笑）

妊婦体験やお風呂の入れ方体験をしてどうでしたか？

長谷川慎（はせがわしん）さん、志織（しおり）さん夫妻

「第一子ということもあって知識が全くありませんでした。そこに妻からの誘いがあったので参加しました。妊婦体験は、思ってた以上に大変で、妻が家事をやってくれているありがたさを身にしみて感じました！いつもありがとう♡」（慎さん）

「今まで以上に掃除や洗濯を行ってくれています。一緒に参加して学べたのですごくうれしかったです♡」（志織さん）

神長（かみなが）さん夫妻

「お風呂入れは大変そうだけど、毎日やることなので、いい体験ができました。この体験を活かし、夫の育児としてがんばりたい！」と感想を述べたご主人。

「これがきっかけで身体の事を気にかけてくれるようになりました♡ 市の事業に楽しそうに参加してくれたので、一緒に育児をしていくのが楽しみ！」（奥さま）

赤ちゃんのお風呂は手早くが基本。パパさんたちはてんてこ舞い。

妊婦体験ではパパさんたちの晴れ姿?!を写真におさめようとスマホを向けるママさんが続出。

赤ちゃんの抱き方を練習。長時間だっこは、意外にきついんですよ。

愛着形成に重要なとき、ママの不安を受け止め、自信を持って子育てできるように。

3～4か月児相談

体重は出生時の約2倍。首がすわり自由に顔を動かしたり、足をバタバタさせるなど動きが大きくなるこの頃、赤ちゃんは人への関心が積極的になり、周囲からの刺激に反応して楽しむようになってきます。

授乳のリズムが整ってきたり、夜もまとめて眠るようになったりと、赤ちゃんとの生活にも少し慣れてくる時期かもしれませんね。

3～4か月児相談では、身体測定のほか、育児相談や離乳食相談を行っているほか、ブックスタート、家庭教育など、母子の健康から情操教育までをカバーしています。

栄養士から離乳食のアドバイスが受けられます。

綿引麗加（わたひきれいか）さん、悠乃（はるの）ちゃん

「子育てのゴールは社会人になるまで」というお話が印象に残りました。私は、初めての子育てなので、わからないことはスマホでググっていたんですが、情報が多すぎて迷っちゃうんです。でも、こうやって、直接アドバイスを受けることができるのはいいことですね。他のママさんとお話しすることもできてほっとしました。

須藤綾子（すどうあやこ）さん、花埜（かの）ちゃん

最近引っ越してきました。妊娠中は他のまちで暮らしていました。笠間の子育てはどうなのかな？と不安でしたが、子育て支援センターの建物も立派。母乳相談もすぐに対応してくれて、しかも無料。
妊娠中のサポートもあまり無いのかなと思っていましたが、お話を聞いて充実していることがわかりました。やっぱり住んでみないと分かりませんね。

生頭香菜子（しょうずかなこ）さん、香永菜（かえな）ちゃん

三人目の赤ちゃんを授かりました。もうベテラン(笑)ですが、今回参加して初産のときを思い出しました。実家は宮城なので少しは不安がありますけど、一人目からのママ友もたくさんいるので、心配はしていないですね。これも三人目の役得でしょうか。ブックスタートでいただいた本が1歳～2歳まで使えそうで、これがまたかわいい。超ラッキーでした。

3～4か月児相談のその後はどうなっているの？

1歳児相談、1歳6か月児健康診査、2歳児歯科健康診査、3歳児健康診査と続きます。

お子さんの元気な様子を見せてくださいね。

母子保健事業
ベビークラス
—4か月から7か月の赤ちゃん—

ベビークラスは、赤ちゃんの発育に合わせて、連続4回講座で行っています。

取材に訪ねた日は、2回目の講座で「ベビーマッサージ子育て交流会」が開かれていました。

ベビーマッサージは寝付きを良くしたり、気持ちを落ち着かせたりする効果があるほか、赤ちゃんの体調の変化に気づくことができるといわれています。

和やかな交流会は、同じ地域で産まれた赤ちゃんがきっかけで、ママ友も作りやすい雰囲気です。

スクール ソーシャルワーカー

教育・社会福祉の専門的な知識、技術を活用して、児童生徒の抱えている悩みや問題の解決に向けて支援する専門家です。

笠間市スクールソーシャルワーカー
福島惠美さん
社会福祉士・精神保健福祉士

大学で福祉関係を学び、特別支援学校の講師を経験する。2009年のリーマンショックの際は、生活困窮者の支援を経験。6年前に茨城県のスクールソーシャルワーカーとして、県内の子どもたちを支援してきた。

今、いじめや不登校、家庭環境における問題等が多様化・複雑化しています。

こうした現状を踏まえ、市では教育・福祉の両面において、専門的な知識や経験のあるスクールソーシャルワーカー（以下SSW）を平成28年度から、市内小・中・義務教育学校に派遣し、子どもたちを支援しています。

市に勤務して、今年で3年目となるSSW福島さんに、お話を伺いました。

■具体的な業務内容は。

定期的に学校を訪問して、児童生徒の様子を見ています。例えば、教室を回ったり、げた箱や持ち物を見たりして、困難を抱えている子どもたちを見逃していないか探しています。関係機関との調整だけではなく、実際に現場を見回っています。

また、家庭訪問もしています。そこで福祉サービスを使う必要があるのか、そうでないのか。必要であれば、具体的に案内して、つなぎの役割をしています。

■不登校、貧困、虐待とさまざまなケースがあると思いますが。

最近は、虐待のケースも目立ち始めています。発見されるケースはさまざまですが、学校や関係機関と協働して支援にあたっています。

非行とかは少なくなってきていますね。でも、逆にメンタル的な面、心の病を訴えている子が多くなってきています。不登校の陰にそういった病気、心の疲弊があったりします。

■最近、増えている相談は。

発達障害に関する相談が増えていますね。発達障害の特徴に、友人関係がうまくいかないということがあります。そこからトラブルが起きて、学校に行きたくなくなって不登校になってしまうとか、いじめにつながってしまう場合もあるので、そこに至らないように、早めに対処できるように努めています。

■市民の皆さんに伝えたいことは。

私たちSSWの最大の目的は、子どもの最善の利益を追求すること、権利を守ることです。子どもたちにはその子なりの幸せの形があると思います。それに寄り添える支援をしていきたいと思っています。

子どもは学校だけじゃなくて、家庭の顔もあるし、地域での顔も持っています。そういった別の顔を見られるのは、家庭であって、地域です。子どもたちの表情の変化で、異変を感じ取ることができると思いますので、一緒に育てていってもらえたらいいなと思います。

子育ては、福祉や保健で完結せず。心の教育が必要です。

市では、子育てを福祉や保健だけにとどめていません。学校教育と並び重要な家庭教育にも力を入れています。

親としての自覚、子どもとのかかわり方、そして何より子どもの心を育てることを家庭教育の先生である「親」が、子育てについて学ぶ場を提供しています。

家庭教育を学ぶ場は、各学校や園で取り組みを進めたり、就学時健康診断の際に、県教育委員会が発刊する「家庭教育ブック」を用いて、ワークショップ形式で行ったりしています。

子育て、家庭教育は一朝一夕とはいきません。子育てをしながら、そのノウハウを身に付けていくものです。市の役割は、さまざまな機会を設けることで、「親としての心得」「子育ての心得」を、肩の力を抜いて、ゆっくりと歩みながら、少しでも考えてもらえるようになってほしいと願っています。

そこで少しでも早く「家庭教育」を伝えたいと考え、平成29年7月から保健センターで行われている3～4か月児相談に合わせて、家庭教育講話の時間を設けました。

ママさんを対象に社会教育指導員や社会教育主事が、乳幼児期の子育てで最も重要なのは、親子の愛着形成であることを伝えています。

限られた時間の中で、すべてを伝えることはできませんが、親が子育てについて学ぶことの大切さや学ぶ場、悩んだときに相談する場を案内しています。

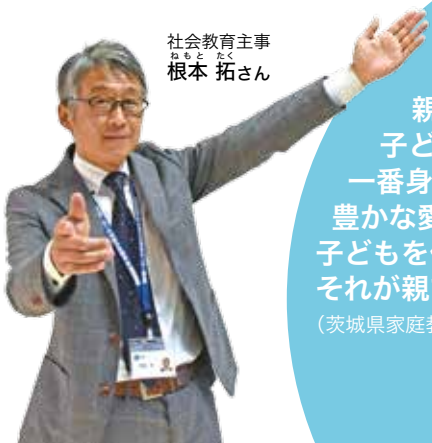
肩の力を抜いて、一緒に子育てについて考えてみましょう。

就学時健康診断の際に、家庭教育学級を行っています。

社会教育指導員
廣原 真さん

社会教育指導員
畫岡 進さん

社会教育指導員
大足久仁子さん



社会教育主事
根本 拓さん

家庭教育学級

親って、何でしょう？
子どもの一番の責任者。
一番身近にいて、
豊かな愛で子どもを包み、
子どもを保護する人。
それが親です。

（茨城県家庭教育ブックより引用）

ボランティアって言いますけど、違うと思うんです。かえって、元気をたくさんもらっちゃってます。

地域が、ボランティアが、子どもを守る。

毎朝、子どもたちの顔を見ている。だから、その子の表情で、その日の気分がわかってくるんですよ。

市内には、毎朝、子どもたちの登校中の安全を見守ってくれるボランティアがいます。その数30団体。

その一つ、宍戸地区のボランティア団体「あおい安全の会」の皆さんにお話を伺いました。

松田　平成24年から団体を組織し、登校時の見守り活動を始めました。翌年にはボランティア団体として市に登録、現在26名で年間200日ほど活動しています。また、不審者情報があった場合は、下校時にも見守り活動を行っています。

■はじめたきっかけは？

松田　当時、宍戸駅の踏切が狭く危険を感じていました。市に要望して踏切の拡張工事をお願いした。でも、お願いだけで、我々が何もしないのって、筋が通らないと思うんです。我々もできることはやろうと皆さんに呼び掛けた。それがスタートでした。

■苦労されている点は？

横手(栄)　苦労なんかしていませんよ。子どもは元気な挨拶をするんです。その挨拶に励まされている。だから続けていけるのかと思っています。

横手(玲)　いつも元気に挨拶してくる子が、今日は元気がないなと思うことがあって、どうしたのかな？何かあったのかなと心配になっちゃう。そういう時は、声をかけるようにしています。

松田　そうですね。元気がないように感じた子には、自然と声かけをしていますね。マスクをしていたら、「どうした？」「かぜ」と短いですが、コミュニケーションを図っています。

現役を引退すると、時間の感覚がなくなっちゃう。あえて仕事といいますけど、この仕事がなくなっちゃうとボケちゃう（笑）

規則正しく、だらだらしなくてすんでいますよ。

横手(玲)　本当ですね（笑）

毎朝、澄んだ空気の中、決まった時間に適度に動く。健康維持の面からもお勧めですよ。

それと、入学当時は、お母さんに送られて通っていた子も、1年、2年と進むにつれて、班長さんになって、しっかり班をまとめながら歩いている姿を見ていると、子どもの成長にジーンとくるんですよね。

横手(栄)　6年間の成長を見届けることができる。こんないいボランティアはないですよ。

■今後の展開は？

松田　防犯ボランティア団体の一つ「宍戸社協子どもを見守るプロジェクト」が、下校時の見守りを行う目的として、宍戸駅前に交番のようなボランティアの詰所を立ち上げる予定です。これでいよいよ下校時の見守りの形が整ってきます。地元で自主的に運営するので、スタートは10人ぐらいかもしれませんが、頑張っていきたいと思います。

あおい安全の会 横手玲子（よこてれいこ）さん

あおい安全の会 横手栄一（よこてえいいち）さん

市防犯ボランティア連絡協議会理事
あおい安全の会代表
松田 薫（まつだかおる）さん

日本一の図書館が行うブックスタート

市立図書館の貸し出し冊数（年間14冊／人）は、人口8万人未満の自治体で、6年連続全国1位を達成しています。

ボランティアが赤ちゃんとママさんの幸せを願い、絵本を楽しむ体験とその絵本をプレゼントしています。

まだ言葉も文字もわからない赤ちゃんに絵本を読んで、意味があるの？と思う人もいるかもしれませんが、赤ちゃんは絵本を見ながらお話をしてもらうことが大好き。おなかの中にいるときから聞いていた声で語りかけてもらうことで、赤ちゃんは自分がとても大切にされていることを知り「安心」します。この「安心」の中でこそ、赤ちゃんは、幸せに成長することができるのです。

ブックスタートって

1992年にイギリスのバーミンガムで取り組みが始まり、日本では平成13年から市区町村自治体の事業として行われています。笠間市では、市立図書館とボランティアが保健センターと協力しながらブックスタートパックを手渡しています。

親子の笑顔を見るのが、私たちの心のビタミン

赤ちゃんは、絵本を開いて話しかけると、
手をのばしたり、声を発したり、
笑顔を見せてくれます。そうすると自然にママも笑顔になります。
赤ちゃんとママの二人は、もちろん幸せです。
そして、その二人を見ているのが、私たちの幸せ。
いつも元気をもらっています。（ブックスタートボランティア談）

感謝

今、少子化や核家族化が進んでいます。また共働き家庭も増加して、子どもや子育て環境を取り巻く地域社会が大きく変化しています。

しかし、そのような中でも、子どもたちの幸せを、安全を、心から願って、活動している地域の皆さんがいます。

紙面でご紹介したほかにも、ボランティアで活動しているたくさんの皆さんが、子育て家庭を応援してくれています。

そのような皆さんに感謝の気持ちを込めて、お礼申し上げます。

「ありがとうございます。」

願い

子どもたちが笑顔になるから、子育ては楽しい。
そう思ってもらえるように、
笠間市は子育て環境の整備や改善を進めています。
しかし、他のまちが行うような、
子育て世代に直接的な支援（現金や現物給付）はしていません。
なぜしないのか、と不満や不思議に思う方もいると思います。

その答えは…一時的なものではなく、カタチとして皆に提供したい。
市の目指す子育ては、安心して子どもを産み育てることができる
まちをつくることなんです。

民間の保育施設の施設整備を支援したり…
子育てに関する情報提供や育児に関する相談体制の充実に努めたり…
児童虐待の発生の予防や早期発見など、児童の育成に努めたり…
ひとり親家庭などの生活の安定と自立に向けて支援に努めたり…
などなど…

すべての親と子が、健やかに生活ができる地域を目指しています。
昨今は、子どもたちを育む社会環境が問われています。
皆さんには、元気にはしゃいでいる子どもたちの声が、
どのように聴こえていますか？
元気なことは良いことです。
多少多めに見てやってください。
市の明るい未来を背負っていく、
大事な宝ものなんですから。

問い合わせ／秘書課広報戦略室（内線224）